



シャクナゲ

77 編は **指揮者によって、エドトン**(ラッパ、シンバルを演奏しながら賛歌を歌う人としてダビデに選ばれた) **に合わせて、アサフの詩。賛歌。**とあります。アサフは先見者であり、シンバルを演奏しますから、かなり鳴り物が激しかったのではないかと想像します。

神に向かってわたしは声をあげ／助けを求めて叫びます。神に向かってわたしは声をあげ／神はわたしに耳を傾けてくださいます。(2) 詩人は「私は神に祈る」、「神は私に耳を傾ける」という、1対1の関係を求め、**声をあげ、叫びます** と、命を賭けているという信仰を歌っています。なぜなら今、**苦難の襲うとき(3)** だからです。人間は自

分が満足している時にはあまり祈らず、助けを必要とする時になると祈る身勝手な存在だとわかります。しかし **夜、わたしの手は疲れも知らず差し出され／わたしの魂は慰めを受け入れません。神を思い続けて呻き／わたしの霊は悩んでなえ果てます。〔セラ (3) と、祈っても祈っても、苦難が絶えず、** 詩人は呻き、悩み、萎え、果てると非常に弱気に陥ってしまいました。

次の **あなたはわたしのまぶたをつかんでおられます。(5)** との不思議な表現は、神が詩人を目覚めさせてくださっているという意味でしょう。これは **どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。(エフェ 6:18)** との言葉を思い起させます。しかし、詩人は **心は騒ぎますが、わたしは語りません。(5)** と、苦難からの解放の道を見いだせていないと言います。けれども心に浮かんでくるのは **いにしえの日々をわたしは思います／とこしえに続く年月を。(6)** と、過去と未来です。現在の苦難に翻弄され、**わたしは言います。「いと高き神の右の御手は変わり／わたしは弱くされてしまった。」(11)** と、神の救いに確信が持たず、疑心暗鬼の波に揺れる胸の内を吐露していますが **わたしは主の御業を思い続け／いにしえに、あなたのなされた奇跡を思い続け あなたの働きをひとつひとつ口ずさみながら／あなたの御業を思いめぐらします。(12)** と神への目を向けつつ、「思い続ける」と 3 度も繰り返していくうちに、信仰を取り戻します。最後に挿入されている詩は、紅海渡渉の故事から、混沌の海の中で溺れる人間と共に歩んで下さる神の力を、壮大なスケールで、高らかに歌っています。

大水はあなたを見た。神よ、大水はあなたを見て、身もだえし／深淵はおののいた。

雨雲は水を注ぎ／雲は声をあげた。あなたの矢は飛び交い／あなたの雷鳴は車のとどろきのよう。

稲妻は世界を照らし出し／地はおののき、震えた。あなたの道は海の中にあり／

あなたの通られる道は大水の中にある。あなたの踏み行かれる跡を知る者はない。

『讚美歌 21』には関連する讚美歌がありませんが、私は 456「わが魂を愛するイエスよ」の 1 節、<https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-05-03> と、462「はてしも知れぬ」<https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-05-23> を賛美したいと思います。ジュネーブ詩編歌はビオラ・ダ・ガンバが、静かに、悲しみ、憂いの波の中を漂いながらも穏やかに岸边にたどり着くような雰囲気歌っています。

<https://www.youtube.com/watch?v=3PrY0d1ifhk&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=77>